平成31年２月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第654号

林業福島

No. 654

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

2
2019

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■雪にも負けず

現代を生きる私どもの使命

福島県市長会長
相馬市長　立　谷　秀　清

『林業福島』をご覧の皆さまには、県内各地域の林業振興と森林管理に多大なご尽力をいただいておりますことに、この場をお借りして御礼を申し上げます。

さて、皆さま既にご存知のように、昨年六月一日に公布された『森林経営管理法』が今年四月一日から施行されることに伴い、「新たな森林管理システム」が新年度からスタートいたします。このことにより、森林所有者の経営管理に対する責務が明確化されるとともに、森林所有者自らが経営管理を実行できない場合は市町村が所有者からの委託を受け、意欲と能力のある林業経営者に再委託する、あるいは再委託できない森林は市町村が経営管理を行うこととなります。

国内の森林は、これまで植栽されたスギ等の人工林が木材として利用可能な時期を迎え、国内の木材自給率が平成二九年に三六・一㌫と過去三〇年間で最高の水準となったとの喜ばしいニュースがある一方、多くの市町村が管内の人工林の手入れが不足していると認識している状況にあります。適切に手入れされた森林は、多くの命を育むとともに、豊かな恵みや多くの感動を私どもに与えてくれます。適切な森林管理は、木材の育成のためだけではなく、災害防止や地球温暖化防止といった森林の持つ公益的機能の維持、そして、農業や漁業の振興、さらには福島県の四季を彩る景観形成のためにも必要不可欠なものです。

昨年六月十日、南相馬市で開催された「第六九回全国植樹祭」のメインテーマは「育てよう　希望の森を　いのちの森を」でした。豊かな機能を持つ福島県の森林は、県民のみならず国民の宝物であり、この森林を「希望の森、いのちの森」として適切に管理し、より良い森林として後世に引き継ぐことは、現代を生きる私どもの使命です。現在、県内全ての基礎自治体が「新たな森林管理システム」の開始に向けた準備を進めております。この新たなシステムを円滑に運用し、私どもの使命を全うするためには『林業福島』をご覧いただいている関係者の皆さまのご理解とご協力をいただかなくてなりません。今後ともこれまで同様のご協力をいただきますようお願いいたします。

《もくじ》

とびら
現代を生きる私どもの使命
　福島県市長会長　相馬市長　立　谷　秀　清…1
熊本県で県外研修
　平成30年度森林土木技術研修会……2
林業研究センターだより……3～4
山火事を防止しましょう
　～忘れない　豊かな森と　火の怖さ～…5
女性に向けたイベント「木のスプーンを作ろう
　～木のスプーンづくりワークショップ～」を開催しました…6
ふくしま木育推進セミナーを開催……7
森林・林業の復興に向けて国へ緊急要望…7
普及指導員通信……8
福島県林業労働力確保支援センターだより…9
木連だより……10
木に触れて豊かな心を育む「木育」⑪……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

熊本県で県外研修
平成三〇年度森林土木技術研修会

福島県森林土木建設業協会

福島県森林土木建設業協会（会長菅家洋一（会津土建㈱）、会員一六六社）は、会員の技術力の向上を図るため、各種研修会を開催しています。

近年、局地的集中豪雨により、特定の区域だけに甚大な災害をもたらすケースが増えていることから、被災からの復興状況を視察研修することを目的に、今年度の森林土木技術研修会は、平成二八年五月の大地震及び六月豪雨により甚大な被害を受けた熊本県を対象に、平成三〇年十一月二六日(月)～二七日(火)に実施し、十二名が参加しました。

熊本城復旧状況視察

始めに熊本城復旧工事状況について、くまもとよかとこ案内人からの説明では、崩れた石垣の修復に二〇年、四二五億円の経費がかかるとのことであり、大天守外観を来年秋までに修復し、小天守を二〇二一年春までに修復することにより見学に資する予定とのことでした。

引き続き、場所を移動し、水前寺成就園の復旧状況を視察しました。阿蘇伏流水のわき水による池を中心に、東海道五十三次の景勝を模した大名庭園であり、地震後は湧水量が減少しましたが、現在は回復しているとのことでした。

次に、南阿蘇村へ移動して、熊本県農林水産部森林局森林保全課担当課長補佐及び熊本県森林土木建設協会事務局長より、大きな被害を受けた立野地区の県治山事業（宮内地区、三ツ石地区）及び国直轄事業（阿蘇大橋地区）の実施状況について説明を受けました。

県治山事業については、地震による直接被害額が四一一億円、その後の豪雨による山地崩壊と治山施設被害も合わせて合計五四一億円と二四年九州北部豪雨災害の二倍強の規模であり、国の早急な対応により激甚災害の指定を受け、国庫補助率が嵩上げされ、補正予算（予備費）の対応も受けているとのことです。

阿蘇大橋地区については、国道やJRも関係する大規模災害であるため、「大規模災害からの復興に関する法律」の適用第一号として「非常災害」に指定され、国直轄事業として実施されています。斜面上部に不安定な土砂があることなどから、リモコンにより建設機械を遠隔操作するなど最新の工法により施工しており、現在は斜面上部の恒久的な安全対策を実施しています。

最後に、阿蘇ジオパーク推進協議会ガイドの説明により、阿蘇中岳火口及び阿蘇火山博物館を視察しました。

国直轄阿蘇大橋地区

火口までの移動車内からは、地震及びその後の豪雨により山肌が崩れている箇所が散見され、また、火口においては、火山ガスや水蒸気の活発な噴出が見られました。さらに、二〇一六年十月の噴火による舗装面の多数の穴や、被害を受けたロープウェイ建屋の撤去状況を見回し、改めて火山の脅威を実感させられました。

また、阿蘇火山博物館では、阿蘇火山について、ビデオ上映及び展示説明により視察を行いました。

研修全体を通じ、参加した会員にとっては、メディア情報と実際の現場との違いを目の当たりにし、今後の業務に大いに資する大変有意義な研修となりました。

林業研究センターだより

森林・林業における カリウム施肥の可能性について

ポット植栽の様子

福島県林業研究センター
森林環境部　飯　島　健　史

県内のきのこ用原木は優良なものでしたが、二〇一一年三月の東京電力福島第一原子力発電所の事故により、森林は放射性物質に汚染されました。きのこ用原木の出荷制限の指標値が五〇ベクレル／キログラムと、一般的な食品の値の一〇〇ベクレル／キログラムよりも厳しい値が設定され、現在も多くの地域できのこ用原木の出荷ができません。また、コナラを主としたきのこ用原木の伐採適期は十五～二〇年と短いため、早急な調査・研究を行うとともに、放射性物質濃度の低減化対策についての指針等の作成が必要です。

震災から八年が経とうとしており、米をはじめとする農作物は放射性物質対策が行われ、安全・安心なものになりました。水田や畑地などは人の生活域に近く、土質は均一です。そのため、除染をはじめ、表土の入れ替えやカリウム施肥、多くの場所での統一した調査など、放射性物質対策がとりやすく、迅速な対応ができました。一方、森林は対象面積が広大で、急な斜面や不均質な土壌をもつ山地にあります。また、対象となる植物は収穫まで数十年を必要とする樹木です。そのため、農作物に比べ、樹木は放射性物質汚染に対する調査・研究がまだ十分に進んでいない状況です。

森林はいわゆる「森林生態系」という独自の物質循環が形成されています。その循環の中に放射性物質が入ってしまったため、放射性物質そのものを除去することは容易ではなく、自然減衰を待つにしても、県内に広く拡散したセシウム１３７の半減期は約三〇年であり長い年月がかかると考えられます。

このように除染が難しく、農地のような土質改良も難しい森林ですが、農作物で効果があるカリウム施肥が、樹木の放射性セシウムの吸収を抑制できる良い方法であると考えられています。

きのこ用原木生産におけるカリウム施肥の効果について、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所を中心とした研究で次の三点がわかっています（参考文献1）。

①土壌中の交換性カリウム量が多い林では当年枝の面移行係数（土壌から植物体への放射性セシウムの動きやすさ）が低いこと。

②カリ施肥を散布した林では、新たな植栽苗が一年間に吸収する放射性セシウム濃度が少なくなる傾向であること。

③カリウム肥料の散布により、一調査区内の当年枝の放射性セシウム濃度は減少し、変動係数（ばらつき）が低下したこと。

以上をまとめると、カリウム施肥

により、放射性セシウムの土壌からの吸収は抑制され新たな汚染は抑制できること、林分内の放射性セシウム濃度のばらつきが小さくなるため、林分全体の汚染状態の把握がより簡易に正確になると考えられます。

また、林野庁の検証事業によりコナラ植栽苗及び萌芽更新木について、次の二点がわかりました（参考文献２）。

①土壌中の交換性カリウム濃度を上昇させることによりコナラ苗への放射性セシウム移行を抑制できること。

②コナラ萌芽更新木に対して、三年間継続してカリウム施肥した結果、葉への放射性セシウム移行を抑制する効果があったこと。

さらに、森林総合研究所のヒノキ植栽苗についての研究においてもカリウム施肥の効果が認められています（参考文献３）、４）。

今後は、カリウム施肥量や施肥期間、コスト面、さらに土壌の違いによるカリウム施肥の効果について検討していく必要があります。

写真１　ポット試験の様子

林業研究センターでは現在、土壌中の交換性カリウム濃度の増加に伴い、植物体中の放射性セシウムが減少する、つまり吸収量が抑制される現象が樹木でも起こるのか検討するため、コナラをポット植栽し、カリウム施肥量を変えた試験を行っています（写真１）。まだ試験開始一年目ですが、この調査によりコナラへのカリウム施肥の適正量を把握し、その後は林地において実証試験を行っていきます。

参考文献

１）国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所（2018）放射能汚染地域におけるシイタケ原木林の利用再開・再生

２）一般社団法人日本森林技術協会・アジア航測株式会社（2018）平成29年度森林施業等による放射性物質拡散防止等検証事業報告書

３）Masabumi Komatsu, Keizo Hirai, Junko Nagakura & Kyotaro Noguchi (2017) Potassium fertilization reduces radiocesium uptake by Japanese cypress seedlings grown in a stand contaminated by the Fukushima Daiichi nuclear accident. SCIENTIFIC REPORTS

４）国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所（2017）樹木の放射性セシウム汚染を低減させる技術の開発へ―カリウム施肥によるセシウム吸収抑制を確認―。2017年12月21日国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所プレスリリース
https://www.ffpri.affrc.go.jp/press/2017/20171221/index.html
（参照：2019-01-15）

山火事を防止しましょう

～忘れない　豊かな森と　火の怖さ～

福島県森林保全課

○山火事の発生時期

冬から春先にかけては、雨が少なく空気が乾燥していることに加え季節風も強いことから、火災発生の危険が高まる時期となります。また暖かくなる春は、登山やハイキングなどで山に入る機会が増えるほか、農作業を始める時期とも重なり、例年、田畑や自宅の周辺などで火の使用等が原因の山火事が多発しています。また、炎が燃え広がりやすい時期であるため、初期対応が遅れると大規模な山火事に発展する恐れがあります。

○山火事の発生原因

全国で平成二九年に発生した山火事（林野火災）は一、二八四件であり、その原因で最も多いのは「たき火」で四〇二件、次に「火入れ」で二一八件となっています。当県においても四二件の山火事が発生しています。※1

このことは、山火事の発生原因の多くが人為的な不注意によるものであることを意味しており、注意をすることで多くの山火事を防ぐことができます。

○山火事を発生させた場合の責任

森林法において、森林に放火をした者に対して、懲役の罰則規定が有ることに加え、失火による森林の延焼に対しても罰則規定があります。

山火事を発生させてしまうことは大変重大なことであり、山火事を発生させないよう私たち一人ひとりが火の取り扱いに注意することを心がけましょう。

○山火事を発見したら

山火事の消火活動は、市街地の火災に比べ、道路、水利、地形などの条件から非常に困難であるため、自力での消火は大変危険です。

山火事が発生した場合や、山火事を発見したときは、すぐに消防署等へ通報するようお願いします。

○山火事を発生させないために

山火事を発生させないためにも、私たち一人ひとりが次のことに注意をして、山火事予防に取り組みましょう。

① 枯れ草がある等火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと。

② 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと。

③ やむを得ずたき火等火を使用する場合は、火気のそばを離れず、使用後は完全に消火すること。

④ 火入れを行う際、市町村長の許可を必ず受けるとともに、十分な実施体制をとること。

⑤ たばこは、指定された場所で喫煙し、吸い殻は必ず消すとともに、投げ捨てをしないこと。

⑥ 火遊びはしないこと。

○おわりに

どんなに小さな火でも燃え広がれば大きな森林も破壊してしまいます。私たちの暮らしに欠かせない水源かん養や県土の保全など森林の持つ大切な役割を失ってしまうことになり、燃えてしまった森林がもとの姿に回復するまでには、何十年もの月日と多大な費用を要します。

ふくしまの豊かな森林から山火事を発生させないよう県民の皆さん一人ひとりの御協力をお願いします。

※1　総務省消防庁公表資料（平成三〇年八月七日付け）より

森林保険

山火事などの災害に備え、森林保険に加入しましょう。
くわしくは、最寄りの森林組合、または森林組合連合会へ御相談下さい。

森林保険イメージキャラクター
マモルくん

女性に向けたイベント「木のスプーンを作ろう～木のスプーンづくりワークショップ～」を開催しました

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

平成三〇年十一月十七日（土曜日）午後一時から、須賀川市にあるレンタルスペース「ラフラフ須賀川店」にて、女性に向けたイベント「木のスプーンを作ろう～木のスプーンづくりワークショップ～」を開催しました。これは、当協会が行っている森林・林業担い手対策事業の一つとして、森林や林業に興味関心のある女性に向けて森や木に関するイベント等を開催するもので、今年度は二回（十一月と三月）開催を予定しています。

一回目である今回は、須賀川市内にある木工作品の工房「かわらまち木工舎」にてカトラリー※1等を製作されている中山由紀子さんを講師に迎えて、彫刻刀や紙やすりを使った「木のスプーン作りワークショップ」を行いました。

はじめに、講師の中山さんから作り方と作業の流れについて説明を受け、さっそく彫刻刀で彫る作業からスタート。今回の素材として使用したのは「さくら」の木です。参加された方は、はじめのうちは彫刻刀の扱いや木の固さに戸惑いながら彫っている様子でしたが、徐々に慣れてくると手際よく彫り進め、みるみるスプーンらしい形になっていきました。

続いて、紙やすりで滑らかにする工程に入ります。粗さの違う五枚の紙やすりを使って、スプーンの先端から柄まで丁寧にやすりがけを行います。

やすりがけが終わったら、焼きペンで柄の部分に名前など好みの文字やマークを入れて、最後に、蜜蝋とえごま油を合わせたオイルでつや出し作業を行いました。オイルを含ませた布を使ってスプーン全体に塗り込み、袋に入れて、一日ほどなじませたら完成です。

初めての方や、リピーターの方も含めて県内各地から二〇名ほどが集まり、ラフラフ店の明るく開放的な雰囲気と、中山さんの柔らかく気さくな人柄に助けられ、和やかで楽しいイベントとなりました。自分の手で作ったスプーンはとても愛おしく、使うのがもったいないほどです。

ぜひとも、日々の暮らしの中でたくさん使っていただき、木の良さや温かさを実感していただけたら幸いです。そして、これからも生活の中に積極的に木製品を取り入れていただき、森や木に思いを馳せるひと時を過ごしていただけたらと願います。

※1　食卓用のナイフ・フォークなど口に入れるため手に持って使う器具の総称

講師の中山さんによる説明

ワークショップの様子

中山さんに教わりながら作業を進めました

焼きペンで名前やワンポイント等を描きます

完成したスプーン、皆さん可愛くできました！

作ったスプーンを手にしての集合写真

ふくしま木育推進セミナーを開催

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島県木材協同組合連合会

平成三〇年十一月八日(木)、郡山市の「福島県農業総合センター」において、「ふくしま木育推進セミナー」を開催し、行政関係者や森林林業関係者、保育・幼児教育関係者など約六〇名の参加者は、木育の意義や木製品の良さなどに更に理解を深めました。

【木製玩具・パネルの展示・説明】

会場には、町村や事業者のご協力を得て、本誌「木育」シリーズで紹介した新生児へプレゼントする木のおもちゃをはじめ子ども達が楽しく遊べる木製玩具や木育推進に関するパネルを展示・ご説明をいただきました。参加者には木製品の良さを実際に見て、触れて、感じていただき、出展者間でも情報交換が行われ、木育を通じた交流が図られました。

木製玩具・パネルの展示・説明

講演会

【講演会】

講演会では、木育の先駆者として木や森に対する熱い思いをお持ちの四名の講師が、これまでの経験や各地での取組事例などを踏まえ、

- 東京おもちゃ美術館副館長の馬場清氏からは、木育は全国各地で特色ある取組が広がっており、子育て支援、環境保全、地域創生にも繋がる地域活性化の起爆剤にもなっていること
- 前塙町長の菊池基文氏からは、地域の森林資源・人材を活かすため、ウッドスタート宣言の取組を進めたこと
- ㈱マストロ・ジェッペットの富永周平氏からは、地域の人・モノ・コトと連携し、子どもが楽しく遊べるよう安全・安心なデザインに心がけていること
- 福島県林業振興課の松浦由佳氏からは、県の森林環境税を活用し、木育の取組が行われていること

などについて、映像も交え丁寧に分かりやすく説明していただきました。

今回のセミナーを通して、幼少の頃より木に親しみ、豊かな心を育む「木育」の取組は、森林・林業のファンを広げるとともに、保育や幼児教育等と連携し「木」を中心とする地域産業の活力向上にも寄与していることが改めて理解できました。

森林・林業の復興に向けて復興・創成期間後の支援継続を国へ緊急要望

福島県林業会議

福島県林業会議は、森林の有する多面的機能と林業の持続的かつ健全な発展に寄与することを目的に設立し、林業関係十団体で構成しています。

現在、東日本大震災からの復興基本方針の見直しを国が進めていることから、森林・林業の再生を成し遂げる上で十年間では解決できない諸問題について、復興・創生期間後も継続して取り組むよう、平成三十年十二月十日に復興庁及び林野庁に要望しました。

要望では、放射性物質対策と森林整備の推進、林業・木材産業の再生に向けた支援、海岸防災林造成に係る予算の確保、原子力損害賠償の確実な実施も求めました。

なお、要望に際しては前復興大臣の吉野正芳衆議院議員にご同行いただきました。

渡辺博道復興大臣

牧元幸司林野庁長官

普及指導員通信

森林資源の循環利用と森林整備の推進

福島県南会津農林事務所
林業普及指導員　山　河　　周

南会津地方は、総土地面積の約93％を森林が占め、うち約46％が民有林となっています。民有林の約21％を占める人工林のうち、利用伐期齢（６～９齢級）と標準伐期齢を超える森林は全体の約９割となり、間伐及び主伐による森林資源の本格的な利用の推進が重要となっています。そのため、農林事務所においては次のような活動を行ってきました。

⑴　間伐推進のための啓発活動

管内の民有林は公有林や共有林が多く、私有林のうち個人所有は約38％となっていますが、私有林は小規模な所有者が多く、集約化に工夫が必要となります。

このことを踏まえ、平成27年度から南会津町針生地区で間伐可能な森林の洗い出しを行うとともに、共有林、小規模森林所有者の立会いによる現地説明会を行い、同意の取りまとめと集約化を図りました。この結果、平成30年度までに約29haの間伐を実施することができました。

また、同町高野地区においては、平成29年度に南会津森林組合と協力し、森林所有者と一緒に現地踏査を実施して約５haの境界確認を行いました。現在、森林所有者の意向確認と森林作業道の線形を検討しており、平成31年度に間伐等を実施する計画です。

⑵　森林資源の循環利用の推進

南会津町役場新庁舎の建設に際し、町有林の木材を庁舎に利用することを当初計画に盛り込み、町と県産材の利用推進等に取り組むNPO法人みなみあいづ森林ネットワーク、林業普及指導員が連携して町有林の伐採と再造林を進める計画づくりを行いました。平成26～28年度にかけてNPO法人が町有林約３haからスギ、カラマツを伐採・搬出し、伐採跡地にはカラマツを植栽しました。

今年度の管内における森林整備は約800haを計画しているうち、森林環境基金森林整備事業（県単独事業）による切り捨て間伐が約６割を占めていますが、路網整備に加えて、主伐と再造林など森林資源の循環的な利用について森林所有者に働きかけを行っています。

また、近年のコンテナ苗の需要の高まりから、当管内の特徴的な樹種であるカラマツのコンテナ苗の生産施設整備が計画されています。今後も引き続き、管内の林業事業体と連携しながら、森林資源の循環利用を推進してまいります。

森林所有者立会いによる現地確認

南会津町役場内装

福島県林業労働力確保支援センターだより

林業就業者・基幹的な就業者の定着促進、専門知識・技能向上へ

～各種研修会を開催しました～

森林づくり研修会
活発な質疑応答が行われた

◎はじめに

福島県林業労働力確保支援センターでは、林業の持続的かつ健全な発展のため、事業体の雇用管理改善や林業の担い手確保・育成等のための各種事業を行っています。

ここでは、今年度後半に取り組んだ主な研修について紹介します。

◎雇用管理研修会・雇用管理改善相談会

平成三〇年八月七日、郡山市のビッグパレットふくしまにて開催しました。

○雇用管理研修会

第一部は、講師として中小企業診断士・社会保険労務士等でご活躍されている「みらいの経営」代表の山崎広輝氏を迎えて「欲しい人材が向こうから来る〝すごい求人票〟の作り方―林業事業体の職員募集におけるハローワークの積極的活用術―」と題してご講演をいただきました。

第二部は、講師として厚生労働省福島労働局職業安定部職業対策課の小比田直美氏を迎えて「最近の雇用失業情勢・厚労省の雇用改善の取り組み」と題してご講演をいただきました。具体的で分かりやすい説明に、二六名の参加者は熱心にメモを取っていました。

○雇用管理改善相談会

「雇用管理研修会」の終了後、事前に申し込みのあった三事業体を対象に実施しました。

それぞれの事業体が抱える雇用管理等の相談について、社会保険労務士の菅野隆氏及び林業支援アドバイザー二名が応じ、今後の対応等について検討しました。

◎基幹林業労働者等研修事業

林業事業体等の現場責任者等への持続可能な林業経営に必要な知識と技術を付与するための研修として「森林作業道作設研修」を行いました。

○森林作業道作設研修（初級・上級）

効率的な素材生産システムの基盤である丈夫で簡易な森林作業道を作設するための初級研修と、更なる知識・技術の向上を図るための上級研修を開催しました。

初級研修は八名、上級研修は六名の計十四名の方が修了しました。

【初級研修】

平成三〇年十月二三日から二六日の四日間の日程で、いわき市にて開催しました。現地研修は、関東森林管理局磐城森林管理署にご協力いただき、いわき市田人町内の国有林で行いました。

初日午前は室内研修、午後は現地踏査及び支障木の伐倒等を行いました。二日目以降はバックホウを使用しての基礎土工を学びました。

【上級研修】

平成三〇年十二月四日から七日の四日間の日程で、初級研修と同じ国有林をお借りして行いました。

初日午前は室内研修、午後は現地踏査及びバックホウを使用しての基礎土工及び応用土工として丸太組工を行い、二日目も同様に実習を行いました。三日目以降は、近辺の作業道作設実例の視察や講師による講義、ＤＶＤによる研修、参加者による意見交換等を行いました。

◎林業就業者キャリア形成支援事業

林業就業者の定着を促進するためキャリア形成に必要な知識を習得するための研修会として「森林（もり）づくり研修会」を開催しました。

○森林（もり）づくり研修会

平成三〇年十二月十九日、郡山市のビッグパレットふくしまにおいて、林野庁森林整備部計画課課長補佐の三間知也氏を迎え「森林経営管理法について」と題してご講演いただきました。

四八名の参加者は、今年四月の法施行を控え、盛んに質疑応答がなされました。

◎終わりに

今後も様々な研修等を予定しており、逐次広報を行いますので、ぜひご活用してください。

雇用管理研修会の様子

雇用管理改善相談会の様子

作業道初級研修　バックホウによる実習

作業道上級研修　丸太組工の実習

木連だより

福島県産木材を使った家具遊具の開発

福島県木材協同組合連合会

福島県木材協同組合連合会では、東北芸術工科大学（山形市）プロダクトデザイン学科と連携しながら、福島県産の安全な木材を使った家具・遊具を製作し、県内の保育施設等での使用を通して子供たちへ木の良さを知っていただく取組をしています。

演習テーマ
「こどものためのウッドプロダクト」

東北芸工大プロダクトデザイン学科の学生三〇名を対象に、プロダクツデザイン演習の中で、それぞれの学生から新しく魅力的なデザインの玩具等の演習を行っています。

1．木材の性質等の講義

木材の性質を理解してもらうために、県木連より学生に対し木材乾燥の重要性や木材加工の方法などについて講義しました。

2．遊具のデザイン・開発に当たり

(1) 学生からの提案

①使う側（子供目線）の視点で
- 楽しく長く遊べる多様性・創造性
- 形が変わる物、心をくすぐる創造性をかき立てられる物
- 競争心を持たせる物

②作る側の視点で
- 木の良さや特徴を知って制作（木に囲まれているとワクワクする）
- 子供には遊具も家具も区別はない
- パーツを大きくするとけがが少なくなる

③安全性が重要
- パーツを大きくする
- 角張っていない
- 釘を使っていない
- 子供には動かせない（つながっていたり、重いなど）

(2) 先生からの提案

①デザインにはリアリティのあるアイデアや理論が必要不可欠

②リアリティを持たせるには、実際のユーザーや使用環境を深く理解すること

③演習では実際に子供たちの活動を観察し、それを基にしたデザインアプローチを実践すること

3．家具・遊具のデザイン作図等

学生たちがそれぞれ一点ずつ家具・遊具の提案を行い次の手順で演習を行いました。

①アイデアスケッチ
②図面の作成
③五分の一スケールの模型の作製
④プレゼンテーション

4．今後

学生から提案のあったデザインの中から四～五点を選び試作を行い、製品化します。製品化した遊具等は県内の保育施設等で使っていただき、子供たちの反応を観察します。

既製遊具の検討

作成した１／５模型

作品の１つ「パズルハウス」

木に触れて豊かな心を育む「木育」⑪

伊達クラフトデザインセンター（伊達市）

林業福島事務局

○はじめに

伊達クラフトデザインセンター（ディ・シー・ツー有限責任事業組合（以下「ＤＣ２」という。））は、東京で開かれた勉強会で地域材を使うことの重要性を学んだ白井貴光氏（㈲白井木工所代表取締役）が、原発事故の影響により厳しい環境に直面している福島県の林業を応援しようと、伊達市を活動拠点として県外の若手事業者三名と一緒に平成二五年二月に設立しました。

事業所内にある木製品ディスプレイ

ＤＣ２では、各メンバーがそれぞれの得意分野を活かし、伝統技術に培われた魅力ある製品開発に挑戦するとともに、ものづくりを通して木の良さを伝え、地域材の活用を広くＰＲしています。

○木製遊具の製作

ＤＣ２は、建具類、木製小物などの製作、公共施設の内装木質化への取組に加え、地域の子ども達に木育活動を通して木の魅力に触れる機会を提供しています。

原発事故の影響により屋外で遊べない福島県の子ども達のため、木の温もりを感じながら体を動かせる屋内遊具として製作した、途中で折り曲がり椅子にも平均台にもなる「クネクネ橋」と、内側と外側の大きさが違う円盤を上手に転がす「コロＱ」は、いずれもウッドデザイン賞二〇一六を受賞しています。

また、画期的な新技術により木材を極薄化し自由に折り曲げられる「ふくしまの木の折り紙」も製作していて、木目の美しさと木の香りを楽しむことができると好評です。

これらの木製品は、材料には地域産のスギを使用し、温かみや心地よさといった木の魅力に、機能性やデザイン性といった付加価値を付けることに心がけて作られています。

○木の良さのＰＲ活動

本連載の中で、国見町のウッドスタート宣言の記事（通巻六四七号）で紹介したこども木育広場「つながる」を施工した実績を買われ、同町オリジナルの誕生祝品を検討する「木育木工デザインセミナー」に参画しているほか、町が主催する「木育木工セミナー」などの講師を務め、一般消費者の方々に木の魅力を精力的にアピールしています。

また、東京都新宿御苑で開催された「第十三回ロハスデザイン大賞二〇一八新宿御苑展」や国見町で開催された「暮らしの中の木づかい展」など、県内外で開催された各種イベントに木製遊具等を体験展示し、県産材の良さを広くＰＲしています。

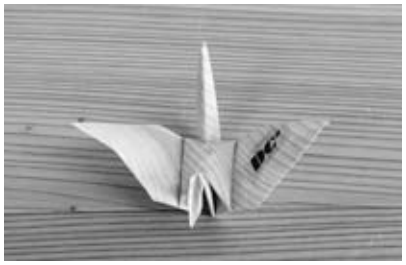
○おわりに

白井氏は、ＤＣ２の活動について、「会社の垣根を越えて各社の技術を結集し協力し合うことで伝統技術を活かした製品づくりを実現できた。ものづくりの大切さや行動に移すことの大切さを実感しています。」、また「私たちは林業家さんが伐ってきた木を加工して魅力ある商品にする、いわば「木の料理人」」と話してくれました。

ＤＣ２が生み出す美味しい商品を、皆さんも味わってみてはいかがでしょうか。

クネクネ橋

コロＱ


木の折り紙で折った「折り鶴」

「暮らしの中の木づかい展」に出展

木材市況

十月の原木市場への入荷状況は、前月比二四パーセント増（前年比一〇パーセント増）の二四、八三九立方メートルとなっている。

販売量は、前月比九パーセント増（前年比九パーセント増）の二四、九〇三立方メートルとなっている。

十一月の価格は強含みとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（11月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	9（8～10）	0	（0～0）		9（8～9）	0	9（8～10）	0
		10～14		並		12（12～13）	0	（0～0）		11（11～12）	0	12（11～13）	1
	中	14～22	3.00	並	スギ	13（11～16）	0	11（11～11）	0	14（14～14）	1	13（11～16）	1
				並	ヒノキ	19（16～22）	0	15（15～15）	0	17（17～17）	1	17（15～22）	0
			6.00	並	スギ	16（15～17）	0	11（10～12）	0	17（17～17）	1	15（10～17）	0
				並	ヒノキ	30（25～35）	0	（0～0）		22（20～24）	0	26（20～35）	0
		20～28	3.65	並	スギ	13（12～14）	1	11（10～12）	0	13（13～14）	1	13（10～14）	1
			4.00	並		12（11～13）	0	11（11～11）	0	13（13～14）	1	12（11～14）	0
			4.00	並	アカマツ	9（7～11）	0	（0～0）		10（9～11）	0	9（7～11）	0
			1.80	並		8（5～11）	0	（0～0）		8（8～8）	0	8（5～11）	0
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	（0～0）		（0～0）		30（29～30）	0	30（29～30）	0
				並	米マツ	（0～0）		34（34～34）	0	29（28～29）	0	30（28～34）	0
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	（0～0）		（0～0）		27（25～29）	0	27（25～29）	0
			4.00	並	アカマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）	0	25（25～25）	0
				並	カラマツ	（0～0）		（0～0）		26（25～27）	0	26（25～27）	0
パルプ用材				並	マツ	7（7～7）	0	（0～0）		6（6～6）	0	6（6～7）	0
				並	広葉樹	9（9～9）	0	（0～0）		7（7～7）	0	8（7～9）	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	（0～0）		7（6～9）	0
	13～14		並	カラマツ	7（7～7）	0	8（7～8）	0
	16以上		並	カラマツ	14（13～14）	0	10（9～11）	0

注）1．前月差の△印は値下りを示す。
2．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
3．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
4．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

小倉寺観音

いわき農林事務所　加藤沙織

国指定重要文化財の小倉寺観音（木造千手観音像）は、福島市小倉寺地区で最も有名であろうものだが、地元の人でも滅多に見ることができない。私も車のお祓いの時が一番最近だ。見たいと思われる方は、小倉寺観音を管理されている大蔵寺に、車のお祓いを頼むと見せて貰えるかもしれない。お祓いしたい車で川俣町方面から国道一一四号にある渡利トンネルへ向かって右側の横道に入れば、左側に見える。

散歩で大蔵寺まで登ることも楽しい。私の一番オススメだった散歩道は渡利トンネルの造成で一部無くなってしまったため、もう見られないが、以前は美しい桜並木があった。桜並木を通り、右に曲がると左手に石段がある。石段は歴史を感じられる風化具合で、落ちて怪我するんじゃないかと怖々とするその反面で冒険するようなワクワクした気持ちで登ったものだ。石段を登り、雑木林を抜けると桜が綺麗な大蔵寺の駐車場へとたどり着ける。小倉寺観音はそこからお寺を通り道なりに進み、大きな木に吊された大わらじを横目に石段を登れば着く。思い出に浸りながらの散歩もいかもしれない。

小倉寺観音の収蔵庫

はなしのひろば

如月

この二月は、私の誕生月だ。誕生日を一年、一年の節目とするなら、小さい頃の誕生日は、目に見えて心身ともに成長していることを確認できる記念日だった。それが、少しずつ年を重ねていくうちに、ひとつの節目に変わりはないが、『思えば遠くへきたもんだ。これからどこまでゆくのやら…。』の心境である。自分の人生を少しだけ振り返ってみるが、これからどこまでゆくのかなど、自分自身でさえまったくわからない。わからないからこそ、年を重ねていくことが愉しいのだろう。

二月は「如月（きさらぎ）」。その「如」は「従う」という意味で、ひとつが動き出すと次々に従って動き出す。その動き出す状態、つまり、自然や草木、動物など、全てが春に向かって動き出す月だという。それにつられて、私も冬晴れの日に散歩に出てみた。冬の柔らかく暖かな光をうけ、自分の町を散歩するのは心地がよい。冬の寒さに縮こまった町も人の心も開放されて、少し伸びをしているようだ。温泉街のこの町は、あちこちで足湯を楽しむ人、日なたのベンチで話に興じるお年寄りたち。そして遠く雪の冠った吾妻連峰は、一枚の早春の絵のように、淡い水色の空に映えている。いつも見慣れた町だが、こんな心地よい日には「この町を旅している」と思うだけで違う風景が見えてくるようだ。生まれ育ったこの町を散歩しながら、遠い記憶の糸を手繰りよせ、時に途切れた糸をつなぎ合わせながら、わずかな散歩の時に懐かしく心遊ばせた。

歩きながら、梅の木の枝先に、蕾がここあそこにたくさんの点となって、光の春を待ち望んでいるのを見つけた。こんな発見も、またひとつ年を重ねたからこそ見えてくる風景なのかも知れない。

（都）

表紙の写真

「雪にも負けず」

第15回ふくしま森林・林業写真コンクール
優秀賞（県森林・林業・緑化協会賞）
受賞者　相馬雅俊さん（福島市）
撮影場所：猪苗代町

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会

発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　水戸　典明

陽光社印刷株式会社
（定価　一〇八円）

お知らせコーナー

ウッドデザイン賞2018で優秀賞（林野庁長官賞）を受賞
～いわきCLT復興公営住宅～

玄関側

ベランダ側

「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、優れた製品・取組等を表彰する「ウッドデザイン賞2018」のソーシャルデザイン部門（木を使って地域や社会を活性化しているもの）建築・空間分野で、CLTパネル工法では国内最大級の共同住宅（地上３階建て、57世帯）である「いわきCLT復興公営住宅」（いわき市常磐下湯長谷地区）が優秀賞（林野庁長官賞）を受賞し、平成30年12月６日に東京都内で表彰式が行われました。

同住宅は、ふくしまCLT木造建築研究会が設計、会津土建㈱などの共同企業体が施工したもので、平成30年度木材利用優良施設コンクールでも、木材利用推進中央協議会会長賞を受賞しました。

第43回福島県児童・生徒木工工作コンクールで表彰

第１部門　最優秀賞作品「はばたく鳥」

第２部門　最優秀賞作品「子負虫と麦魚・生と死」

木を通じた体験を思い出に、子ども達の未来につながる新たな第一歩となることを願って、「君がつなげるウッドメモリーズ」をテーマに開催された第43回福島県児童・生徒木工工作コンクールの表彰式が平成30年11月25日にいわき市で行われました。

コンクールには、県内の小学生から583点の応募があり、最優秀賞（福島県知事賞）受賞者は、次のとおりです。

部　門	作　品　名	受賞者氏名	学校名・学年
第１部門（小学校低学年）	はばたく鳥	阿部　幸賢	福島市立野田小学校４年
第２部門（小学校高学年）	子負虫と麦魚・生と死	井上　喬平	いわき市立泉小学校６年

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ **GP-35B グラップルプロセッサ**

IWAFUJI INDUSTRIAL CO., LTD.

傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ
・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新のGP-8コントローラを搭載
・5.7インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
・A,B,C,Dの4コード毎に4種類、合計16種類の測長設定値
・樹種を4種類登録でき、個別に材長調整値の設定が可能

新開発のスタッドローラ(オプション)
・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド(鋲)が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンス

For the future with forest

イワフジ工業株式会社
www.iwafuji.co.jp

（北関東支店） 福島県郡山市八山田5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
（本社・工場） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（支　　店） 札幌・東北・北関東・関東・中部・関西・九州

林業福島 二月号 通巻第六五四号
昭和四十二年二月二十四日第三種郵便物認可
平成三十一年二月一日発行（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 水戸 典明
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一〇八円
年間購読料一、九〇〇円（税・送料込）

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤
ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリンガード・NEO

くん蒸剤
ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート
くん蒸与作シート

ハチ退治
ハチノックL（巣処理用スプレー）
ハチノックS（携帯用スプレー）

レインボー薬品株式会社
東京都台東区上野1-19-10
お問い合わせ　TEL. 03(6740)7777
平日 9:00～17:00（土・日・祝日は休み）

ZENOAH®
人と共に　緑と共に

For Professional
BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional
GZ3950EZ
排気量 39.1cc
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR
刈幅：1500mm　出力：27.5kW

SR3100
破砕径：200mm　出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1